

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(△05)

目的 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成果 1. 韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流では、2019(令和元)年7月1日～19日に前原恵美・無形文化財研究室長を韓国国立無形遺産院に派遣し、同院の研究員と共に無形文化遺産、特に伝統音楽の楽器製作技術の継承に関する共同調査を実施した。本調査の成果は韓国国立無形遺産院における成果発表会で発表した(7月18日)。また9月17日～10月4日に、韓国国立無形遺産院の姜敬恵学芸研究士を受け入れ、民俗技術、特に伝統農耕技術に関する共同調査を静岡県静岡市井川及び宮崎県椎葉村等で実施した。その成果は成果発表会で発表された(10月4日)。



韓国国立無形遺産院との交流事業における焼畑農耕技術の調査の様子(宮崎県椎葉村)

2. 無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究では、ユネスコ無形文化遺産条約第14回政府間委員会(開催国コロンビア:12月9日～14日)に2名のスタッフ(石村・二神)を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行うとともに、日本政府代表団に専門的な助言を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第14号において報告した。また、ユネスコ無形文化遺産保護条約に関連した用語を解説した『無形文化遺産用語集』を2020(令和2)年3月に刊行した。
3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)への協力では、国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」(於東京国立博物館:2019(令和元)年11月28日～29日)に1名のスタッフ(石村)が出席した。また本研究所との共催事業として開催された国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」(於東京文化財研究所:12月17日～18日)の運営に全面的に協力した。

報告・二神葉子:「無形文化遺産の保護に関する第14回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』14 pp.1-22 20.3

発表・石村智:国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」パネリスト 19.11.28-29

・石村智:国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」Session 1,2(司会)、Session 3(パネリスト) 19.12.17-18

刊行物・『無形文化遺産用語集』 20.3

研究組織 ○石村智、前原恵美、半戸文、金昭賢(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、宮田繁幸、松山直子、神野知恵(以上、客員研究員)